

道徳通信

No.1

安田中学校
文責 元久
令和5年7月14日

「特別の教科 道徳」の学習では、子どもたちの道徳性をはぐくむことを狙いとしています。道徳性とは、子どもたちが自らよりよい生き方を見出すための基盤となるものです。道徳性を育むことで「自分にもできる」と自己肯定感を高めることや社会性を身に付けることができます。

道徳通信では、道徳の授業で子どもたちが考えたことをお伝えします。ご家庭でも子どもたちと接するときに、話題にしていいただければ幸いです。

1年：あなたの「生きようとする力」

赤ちゃんが生まれた時に初めて出す声、「産声」から、「赤ちゃんの生きようとする力」、生命の尊さについて学習しました。また、この世に生まれてきたことや、今生きていることについて考えました。

- この話を聞いて自分は新しい命が生まれることはとてもすごいことなんだとわかった。自分は今まで大変だったことやうれしかったことはいろいろあったけど、1人じゃなくいろいろな人と関わり助け合いながら成長してきました。なので、これからもこの命を大切にしながら生きていきたいと思います。
- 自分が何かあるたびに、親や友達が共感してくれたり、手伝ってくれたりして、自分は1人じゃないんだなと思いました。今回の授業では、自分が生まれた時や親、友だちの大切さについても知ることができました。頼ったり、頼られたいです。
- 自分は生まれてすぐに産声を上げずに生まれてきたと聞きました。でも、いま生きているので、生きたいという気持ちがあったんじゃないかなあ…と思いました。うれしいことと大変なことは平等じゃないし、めんどくさい…と思うときもあるけど、改めて頑張ろうと思いました。

2年：野生の猛禽類を守るために

鉛入りの弾丸で撃たれた動物の死骸を食べた猛禽類の治療にあたった医師が鉛入りの弾丸を使うことをやめるようにハンターに提案します。ハンターとの意見の食い違いを通して、相互に理解する態度や寛容の心について考えました。

- 自分の意見ばかり相手に言うんじゃないくて、相手を尊重し、お互いにアドバイスしながらやっていくと、お互いのいいところが合わさって一番いい意見ができると思うので、最後まで他者意識は大事。
- 否定されたとってもイライラしたり、ウザイと感じてしまうので、「そういう考え方もあるね。」や「なるほど。」など、相手の意見をまず飲み込んで話すことが大事だと感じた。
- 偏見などだけで決めつけたり、相手の意見を聞かないと、他者を理解することができないことが分かった。

3年：監督がくれたメダル

3年生になっても野球部のレギュラーになれず、1年生と一緒にノックや打撃投手の裏方の仕事を命じられた少年の姿を通して、集団の中の一員として自己を見つめ、役割を自覚し、責任を果たすことで、集団生活が向上することを考えました。

【生徒の振り返りより】

- チームのためにしたことは自分に帰ってくる。自分の向上のためにも集団生活充実のために必要な考えを持つ。
- 自分の役割を理解し、自分の考えをみんなに伝えていく。自分が考えたことはみんなに伝えて向上心を持って過ごす。
- 集団をよりよくするためには、その集団内での自分の役割を見つけることが必要。集団のための行動は自分自身を成長させる。

家庭で取り組む高知の道徳について

自由な時間が増える夏休みは自分で考えて行動する場面が多くなります。「家庭で取り組む高知の道徳」のP.34、35の「自由と自分勝手は違う」に目を通して、自由や責任について感じたことを書いてみましょう。おうちの人もぜひ一緒に確認をお願いします。

〈返信〉 () 年 氏名 ()